

## キリストのからだとしての召会のビジョン、実行、建造

(木曜日——夜の部)

メッセージ 3

### 召会に対する神の定められた御旨 (3)

すべてのものをキリストの中でかしらにつり上げる

聖書：エペソ 1:10. 4:15-16. コロサイ 2:19

I. 「時代の満了時のエコノミー [経綸] へ至るためです。すなわち、キリストの中で、天にあるもの地にあるもの、すべてのものを、彼の中でかしらにつり上げようとされたのです」——エペソ 1:10 :

- A. 神が彼の願いにしたがって彼ご自身の中で計画し定めたエコノミーあるいは経綸は、時代の満了時に、すべてのものをキリストの中でかしらにつり上げることです。
- B. このことが達成されるのは、命の要因としての三一の神の満ちあふれる命の供給が、召会のすべての肢体の中へと分与されて、彼らが死の状況から立ち上がり、からだにつながることを通してです。
- C. 「時代」とは世代のことを指しています。そして、時代の満了時とは、すべての世代における神の経綸がすべて完成した後に新天新地が現れる時のことです。(経綸とは、分与の行動あるいは段階です。それは神がご自身を彼の選びの民の中へと分与することを指しています。わたしたちは神の要素が、神の命と性質と共に、わたしたちの存在の中へと造り込まれることを必要とします。これが経綸の意味です) :
  - 1. 全部で四つの時代があります：罪（アダム）の時代、律法（モーセ）の時代、恵み（キリスト）の時代、王国（千年期）の時代。
  - 2. 神は彼ご自身を、アベル、エノス、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブとヨセフ、モーセの中へと分与しました。そしてもちろん、主イエスにおいてもそうでした。
  - 3. この分与は新約の書簡の中で継続しています。神の今の時代の経綸は使徒パウロの時よりもさらに大きくなっています。今日、神の恵みの経綸は、さらに深く、さらに高く、さらに広いものになっています——参照、エペソ 3:2. I ペテロ 4:10。
  - 4. この経綸は継続して千年期を経過し、時代の満了時に至ります。終極で究極の経綸は、三一の神が新エルサレムの都全体の中へと分与されることです——啓 22:1-2。
  - 5. 今日わたしたちは召会生活の中で、この究極の経綸の縮図を享受しています。わたしたちは召会生活の中でその霊を生ける水として飲み、キリストを命の木として食べるとき、究極の経綸を待ち望んでいるのです。その究極の経綸の中で、わたしたちは三一の神で完全に浸透されます。
  - 6. 命がある所には、光もあります（ヨハネ 1:4. 8:12）。新エルサレムは光で浸透されているので、太陽の光を必要としません。三一の神の栄光が、わたしたちを照らし制御する光となります（啓 21:23）。
  - 7. 新エルサレムには夜はなく、死もなく、暗やみもありません。代わりに、命と光

があり、これらはあらゆるものを立ち上がらせ、良い秩序にします。

8. 新天新地の中心としての新エルサレムでは、すべてのものがキリストの中でかしらに上げられています (24 節)。これは、エペソ第 1 章 10 節で語られた、すべてのものをキリストの中でかしらに上げることの成就です。

D. 神はキリストを万物の上のかしらとしました (22 節)。すべての世代における神のすべての経綸を通して、すべてのものは新天新地においてキリストの中でかしらに上げられます。これは、神の永遠の行政とエコノミーです。

E. こういうわけで、10 節のすべてのものをかしらに上げるとは、3 節から 9 節にかけて取り扱われているすべてのことの結果です。すなわち、神がわたしたちを選び、わたしたちをあらかじめ定め、わたしたちを贖い、わたしたちを赦し、わたしたちを恵んだのは、すべてのものをキリストの中でかしらに上げためでした。

F. 22 節はさらに前進して啓示しています。すなわち、このようにかしらに上げるとは召会に対してであり、それは、キリストのからだ、天使と人の反逆によって引き起こされた、死と暗やみの中にある宇宙的な崩壊の堆積から救い出されて、かしらであるキリストのすべてにあずかるためです。崩壊から救い出されることは、かしらに上げられることです。

G. このように信者たちがかしらに上げられることにあずかるのは、召会生活の中で進んでかしらに上げられることによって、命において成長することによって、キリストの光の下で生活することによってです——ヨハネ 1:4. 8:12. エペソ 5:8-9. 啓 21:23-25。

H. エゼキエル第 37 章にある死んで、枯れて、分散している骨の絵が見せているのは、真の一の中にあるからだ、召会、神の家を持つための唯一の道が、命の道であるということです：

1. 息は死んだ骨の中に入ったとき、骨にとって命となり、骨は生き、一の中で立ち上がって、極めて大きな軍隊となりました。

2. これらの死んだ骨は生かされ、一となりました。それは、命の分与と命における成長との結果です——1-14 節。

I. すべてのものをキリストの中でかしらに上げるとは、三一の神の満ちあふれる命の供給がわたしたちの中へと分与されることを通して起こります。命の要因がわたしたちに供給されればされるほど、わたしたちはますます立ち上がり、つながります。神がわたしたちをかしらに上げるとは、彼ご自身を命の要因としてわたしたちの中へと造り込み、わたしたちが立ち上がり、互いにつながるようになることです。

J. あらゆるものがキリストの中でかしらに上げられるとき、完全な平安と調和があり (イザヤ 2:4. 11:6. 55:12. 詩 96:12-13)、崩壊からの完全な救いがあります。これは万物復興の時から始まります (使徒 3:21)。

II. わたしたちはすべての事で、かしらであるキリストの中へと成長し込む必要があります——エペソ 4:15：

A. からだの有機的な建造とは、からだの成長であり、それはまた神がすべての肢体の

中で増し加わり、命としての神が増加することです—— 2:21-22, 4:16, コロサイ 2:19, 参照、ヨハネ 3:30。

- B. 命において成長することは、わたしたちの中にさらに多く神を持つことです。わたしたちの問題は、わたしたちが神に欠けていることです——参照、ヨブ 1:1-5, 42:1-6。
- C. 成長する肢体は、建造する肢体です——エペソ 4:16。
- D. かしらの中へと成長し込むために、わたしたちは愛の中で真実を固く保たなければなりません—— 15 節：

1. ここの「真実」は、真実な事柄を意味します——ローマ 3:4：

a. わたしたちは神の永遠のエコノミーを固く保つ必要があります—— I テモテ 1:3-4：

(1) これは、神の中に隠されている奥義のエコノミーです——エペソ 3:9。

(2) このエコノミーは、召会をキリストの有機的なからだとして得て、新エルサレムにおいて究極的に完成し、キリストを神の多種多様な知恵として現すことです—— 10-11 節, 1:22-23, I コリント 1:30。

b. わたしたちはすべてを含むキリストを固く保つ必要があります——ヨハネ 14:6, エペソ 1:23：

(1) 彼の度量は測り得ません—— 3:18。

(2) 彼の豊富は計り知れません—— 8 節。

(3) 彼の愛は知識を超越しています—— 19 節。

c. わたしたちはキリストのからだとしての召会を固く保つ必要があります—— I テモテ 3:15：

(1) キリストのからだは団体のキリストです——使徒 9:4, I コリント 12:12。

(2) キリストのからだは、キリストと神との豊満であり表現です——エペソ 1:23, 3:19。

2. わたしたちは神聖な愛の要素と範囲の中で真実を固く保ちます—— 4:15。

3. わたしたちはすべての事がかしらの中へと成長し込みます。「すべての事」とは、わたしたちの日常生活と働きにおける大きな事や小さな事を含めたあらゆる事を意味します——参照、ゼカリヤ 4:6, 10。

4. わたしたちがかしらの中へと成長し込むのは、キリストの頭首権の権威を承認することを通してです——参照、ヨシュア 9:14：

a. キリストはあらゆる人のかしらです—— I コリント 11:3。

b. キリストは召会のかしらです——エペソ 5:23。

c. キリストは万物のかしらです—— 1:22, 10。

5. わたしたちがかしらの中へと成長し込むのは、キリストにわたしたちの内側の各部分すべてにおいて増し加わり成長していただくことによってです：

a. 命において成長するために、わたしたちはミングリングされた霊を認識し、用い、活用しなければなりません：

(1) エペソ第 1 章 17 節は、わたしたちが知恵と啓示の霊を祈り求めて、キリストと神のエコノミーを十分に認識する必要があることを見せています。

(2) エペソ第 2 章 22 節は、すべての信者たちが共に建造されて、霊の中にある

神の住まいへと至ると言っています。

- (3) エペソ第3章5節は、キリストの奥義が彼の聖なる使徒たちと預言者たちに、霊の中で啓示されていると言っています。
  - (4) エペソ第3章16節は、わたしたちが内なる人の中へと増強されるように祈る必要があることを見せています。内なる人とは、わたしたちの再生された霊であり、神の命をその命として持っています。
  - (5) エペソ第4章23節は、わたしたちに思いの霊の中で新しくされるようにと告げています。
  - (6) エペソ第5章18節は、わたしたちに霊の中で満たされるようにと告げています。
  - (7) エペソ第6章18節は、わたしたちにどんな時にも霊の中で祈るようにと告げています。
- b. 命において成長するために、わたしたちは聖なる言の乳と食物から養いを得なければなりません。聖なる言とはキリストの具体化であり、キリストは神の生ける言です——I ペテロ 2:2. ヘブル 5:13-14。

### Ⅲ. わたしたちが命においてかしらの中へと成長し込むとき、わたしたちの機能がからだの建造のためにかしらから出てきます——エペソ 4:16 :

A. わたしたちがあらゆる事でキリストにかしらになっていただくとき、またすべての事でかしらの中へと成長し込むとき、わたしたちは彼の命の豊富で供給され、彼から何かを受けて、からだの他の肢体にそれを伝達します——I コリント 14:4 後半、ヨハネ 7:37-39 :

1. キリストのからだを建造するとは、キリストを命を与える霊として聖徒たちの中へと供給して、彼らがキリストの中へと成長し込むようにすることです——II コリント 3:6, 8。
2. わたしたちは、聖徒たちが主を享受することと主によって養われることを学んで、成長することができるように助けなければなりません——ピリピ 1:25. II コリント 1:24。

B. からだ全体がキリストのからだを成長させます——エペソ 4:16 :

1. この成長は、豊富な供給のあらゆる節々を通してです。すなわち、キリストのからだにおける特別な賜物を持つあらゆる部分を通してです——11-12 節。
2. この成長は、それぞれの部分の度量に応じた活動を通してです。すなわち、キリストのからだのあらゆる肢体の度量に応じた活動を通してです——7-8 節。

C. キリストのからだの建造は、愛の中で、また愛によってです——I コリント 8:1 後半 :

1. わたしたちがキリストのからだの建造のために何であろうと何をしようと、愛が最も卓越した道です——12:31 後半—13:13。
2. エペソ人への手紙の目標は、わたしたちを神の内なる実質である愛の中へともたらし（I ヨハネ 4:8, 16）、それによってわたしたちが愛である神を享受し、神聖な愛の甘さの中で彼の臨在を享受し、キリストが愛したのと同じように他の人を愛するようにならせることです——エペソ 5:25. 6:24. 1:4. 3:17. 4:2, 15-16. 5:2。

